

令和元年度第1回広島県まち・ひと・しごと創生総合戦略外部評価会議

(令和元年8月2日開催)

事業名	主 な 意 見
産業クラスター形成事業	<p>○ 指標である医療機器等生産額は未達成となっているが、平成22年から平成30年までの間で生産額が3倍以上（H22：90億円⇒H30：285億円）伸びているというのは、相当な成果であると思う。生産額の指標に合わせて、具体的な進出企業数とか、新しいプロジェクトが立ち上がった件数を指標として加えることで、成果が明確に見えるのではないかな。</p> <p>○ 医療以外の分野から医療分野に流れてくる企業もたくさんあるだろうと思う。補助金が呼び水になり、実証実験等を重ねながら裾野を広げる、実用化していく、という形で、企業を独り立ちさせていくことが重要である。 各企業が参加する、連携するという実証実験の取組等を広島モデルとしてアピールしていくことで、広島の訴求力が高まるのではないかな。</p>
海外ビジネス展開支援事業	<p>○ 産学官連携においては、参加者がお互いに異なる評価軸で動いているということを理解して進める必要がある。大学側は、研究を通じて成果を出すという評価軸があり、企業側はビジネスにつなげるという評価軸がある。それぞれの評価軸に対する成果をエビデンスとして残すことが重要。お互いウィンウィンの関係になるにはどうしたらいいかということ配慮しながら進めると、全体としてうまくいくと思うので、県はそういう雰囲気や仕組みをつくる役割を担ってほしい。</p> <p>○ 大学においても、研究開発を行政と連携して実施した実績や、社会への貢献度という観点からも評価されるようになりつつある。様々な民間企業や行政と一緒にやっているということが強みになって、研究費の申請で考慮されるという面もあるので、各主体がそれぞれの軸でプラスになるような活動を一生懸命行うことで、広島全体を皆で向上させていければ良いと思う。</p>
観光地ひろしま推進事業	<p>○ 過去に、宮島口駅で事故が発生し、長時間電車が停車するという事態に出くわした。その際、外国人観光客が多くいたにもかかわらず、鉄道会社から外国人観光客に対しては何のメッセージもなかった。観光客の受入環境について、こういった課題があるのか、県庁がリーダーシップを取って常にモニタリングし、必要な改善策を図っていくための組織が必要なのではないかな。</p> <p>○ 観光消費額に関しては、中国人観光客の消費額に比べ韓国人観光客の消費額が4分の1程度といった消費の内容に関するデータも存在している。そういったデータを活用し、量だけでなく質に対するアプローチも行うべきではないかな。</p>
ひろしまブランド推進事業	<p>○ 小さなゲストハウスのようなところに宿泊する外国人観光客も増加している。小さな事業者においても観光客に対するおもてなしをしっかりと行うといった草の根的な活動もブランド向上には必要ではないかな。</p> <p>○ 県外の方と会うと、広島のことを褒めていただくことが多い。食べ物がおいしく、世界遺産が2つ、スキー場、プロスポーツチームもあり、これ以上何を望むのかとよく言われる。その位、広島は魅力があると私自身改めて認識したところである。 ただ、広島県民は、他県に行っても「広島は、大したことない」と言って帰ってくる。子供の頃から広島はいい所だという意識を浸透させる仕組みが必要。どんどん行政や商工会議所等が音頭を取って、県民に広島の魅力を広めていく、県外に赴任した人にはその地でさらに広めてもらうという雰囲気づくりをやっていくべきではないかな。</p>

事業名	主 な 意 見
ひろしま ブランド 推進事業	<p>○ 広島県の人口と京都府の人口はほぼ同じで、広島にも京都と同じようにいろいろな名所も多くあるが、京都の方がブランド力はかなり高い。何が違うかといったら、京都の人は京都に誇りを持っていて、広島の方は、広島なんて大したことないですよと言ってしまう傾向がある。広島に住んでいる人が広島を誇れるような仕組みを作れば、さらに県内からの発信力が増すのではないかな。</p> <p>○ ブランドランキングでは、強みのある市町を持つ都道府県が上位にランクインする傾向がある。静岡などは、伊豆と熱海で大きくポイントを稼いでいる。北海道がダントツ1位なのは、いろいろな市がポイントを獲得しているからである。広島県はポイントを稼げる市町が広島市と尾道市だけになっている。市町と連携し、市町の魅力をもっと開拓すべきではないかな。</p>
働き方改革・ 女性の活躍 推進事業	<p>○ 働き方改革と女性活躍推進は、車の両輪で進めていかなければいけないが、働き方改革の方が推進しやすい。働き方改革は、制度を変えることによって意識を変えていくものなので、長時間労働の削減、年休取得促進など成果が見えやすく、とつきやすいと企業の方からも聞いている。</p> <p>一方、女性活躍推進については、管理職登用できるキャリアの方がそもそも少ないため、長期的スパンで育成することが重要である。働き方改革の進んだ企業において、今後は、女性活躍推進を中心にやっていこうという流れができれば良いのではないかな。</p> <p>○ 女性が、幹部育成セミナーなどを受けようと思っても、夕方から始まったり、泊まりで行かなくてはならないなど、子供を持っている人には行けないような仕組みになっているので、子供を持っている人でも参加しやすい時間帯での実施や、日帰りで行けるようにするといった工夫をする必要がある。</p> <p>○ 最近出会う女性の起業希望者は、ちょっと稼げれば良いというのではなく、前職以上の収入を稼ぎたい、2年後には1,000万円稼ぎたいといった大きな志を持って起業している。起業も含め、女性の働き方に対する考え方が変わってきているということも知っておいてほしい。</p> <p>○ 女性の活躍推進については、もっとデータの整備が必要。管理職になった女性が何パーセントいるというデータだけではなく、管理職候補となる女性が広島県内にどれくらいいるのかとか、管理職候補の女性が辞めないで何年続けているのかとか、そういう細かいデータを集めれば、管理職の割合は達成していなくても、管理職になりそうな人はこれだけ増えているといった全体像が見えてくる。設定した指標だけを見ても、状況が好転しているのかどうか分からないというのでは良くない。保育所や学童の問題も同様。保育所が整備されたかどうかではなく、利用者の家と職場と保育所の位置関係や、保育所に通っていた子供が小学校に入学した段階で学童に入れているかどうかといった、事態がどういう方向に進んでいて、どんな問題があるのかという検証データを取っていくことで、コストを投入した成果が見えてくる。そのデータを県が持っていれば、広島県の状況を説明・アピールするエビデンスになる。</p>
プロフェッショナル人材 マッチング 支援事業	<p>○ 本来の目的であるプロフェッショナル人材を雇用した企業経営拡大ということ考えると、プロフェッショナル人材を雇用した人数だけではなく、人材が定着したかどうかという検証をすることも必要ではないかな。</p>

事業名	主 な 意 見
持続可能な国際平和支援メカニズムの構築	<p>○ これまでの取組により、平和を担う人材の世代が拡大していること、その中に特にビジネスリーダーが織り込まれてきているところが非常に大きな進展であると感じている。これらのことが拠点としてのイメージを植え付けてくれるのではないかと思う。</p> <p>現状としては、若い世代の発信力がまだ弱いと感じている。高校生の英語力は、格段に上がってきていると思うが、それでも国際交流の場では臆する子たちがまだまだいる。今後、担い手を育てる中で、少数でもいいので、確実に発信し、活動できる人たちを育てていくような仕組みになってほしい。</p> <p>○ インターネットでのコミュニケーションでは、フェイク情報に対抗するために信頼できるデータソースを常に持つておくことが重要であり、オンライン教材という形で、世界中から信頼され、アクセスできるものを提供していく体制を広げていくことは重要である。</p> <p>○ 以前、大学生に対し、元国連職員の方に国連職員になるためのプロセスについて講義をしてもらったところ、学生たちから「非常に参考になった」という反応があった。日本の学生に対して、そういった情報を与える機会が非常に少ないと思う。日本は国連等にお金を出している割に、国連職員として働く人が少ないというのは昔から言われているが、中学生や高校生に対し、「国際的に活躍する職業に就くにはどうしたらいいか」といった具体的話をする機会を設けるとインパクトがあるのではないか。</p>